

西日本小学児童におけるアレルギー疾患 有症率調査 1992、2002、2012年の比較

出典 日本小児アレルギー学会誌 (0914-2649) 27 巻 2 号 Page149-169 (2013. 06)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014016402>)

著者 西間三馨 他

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、
山口県、沖縄県、兵庫県、香川県

調査時期 1992 年、2002 年、2012 年

調査対象 6～12 歳 (小学 1 年～6 年)

依頼数 1992 年 : 46716 人、2002 年 : 36228 人、2012 年 : 33902 人

診断方法 ATS-DLD

有症率 1992 年 : 15.89%
2002 年 : 20.45%
2012 年 : 28.05%

男女別有症率	男	女
1992 年 :	19.22%	12.49%
2002 年 :	34.29%	16.54%
2012 年 :	32.85%	23.10%

調査概要 西日本 11 県の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の
経年変化を調査した論文。アレルギー性鼻炎、スギ花粉症は年長児に多く
認められた。2002 年より都市部、非都市部の有症率の大きな差はなくなった。